

紀伊半島大水害 復旧・復興の現状と取組

平成25年11月更新版

奈良県紀伊半島大水害
復旧・復興推進本部

目 次

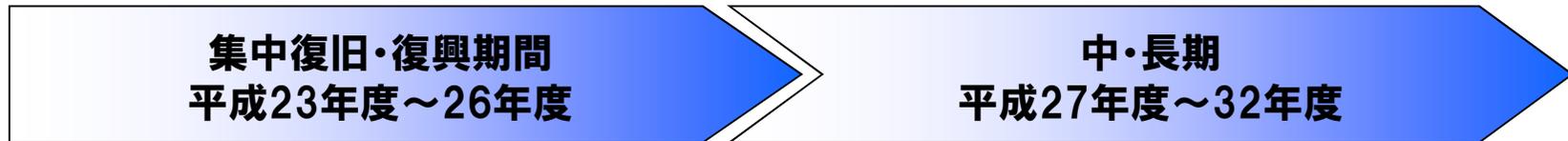
◆ 奈良県紀伊半島大水害復旧・復興計画の概要	P 1
◆ これまでの復旧・復興の主な動き	P 2
◆ 復旧・復興関係の予算概要	P 3
◆ 避難者・仮設住宅の状況	P 4
◆ 避難者の推移及び今後の帰宅等予定時期	P 5
◆ 避難生活の早期解消に向けた取組の状況	P 6
◆ インフラ等の復旧状況	P 1 3
◆ 台風18号による被災状況	P 2 3
◆ 地域の再生・再興（紀伊半島アンカールート）	P 2 4
◆ 国道168号雨量通行規制区間の見直し	P 2 5
◆ 農林業関係の復旧状況	P 2 6
◆ 産業の復興状況	P 3 0
◆ 観光業の復興状況	P 3 2
◆ 福祉の充実	P 3 5
◆ 安全・安心への備え	P 3 6
◆ 災害時のライフライン（電気・通信等）の強化	P 3 8
◆ 記録の整備、次世代への継承	P 3 9
◆ 地域産業復興プロジェクトチームの取組状況	P 4 0
◆ 第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～	P 4 3
◆ ふるさと復興協力隊	P 4 4

◆奈良県紀伊半島大水害復旧・復興計画の概要

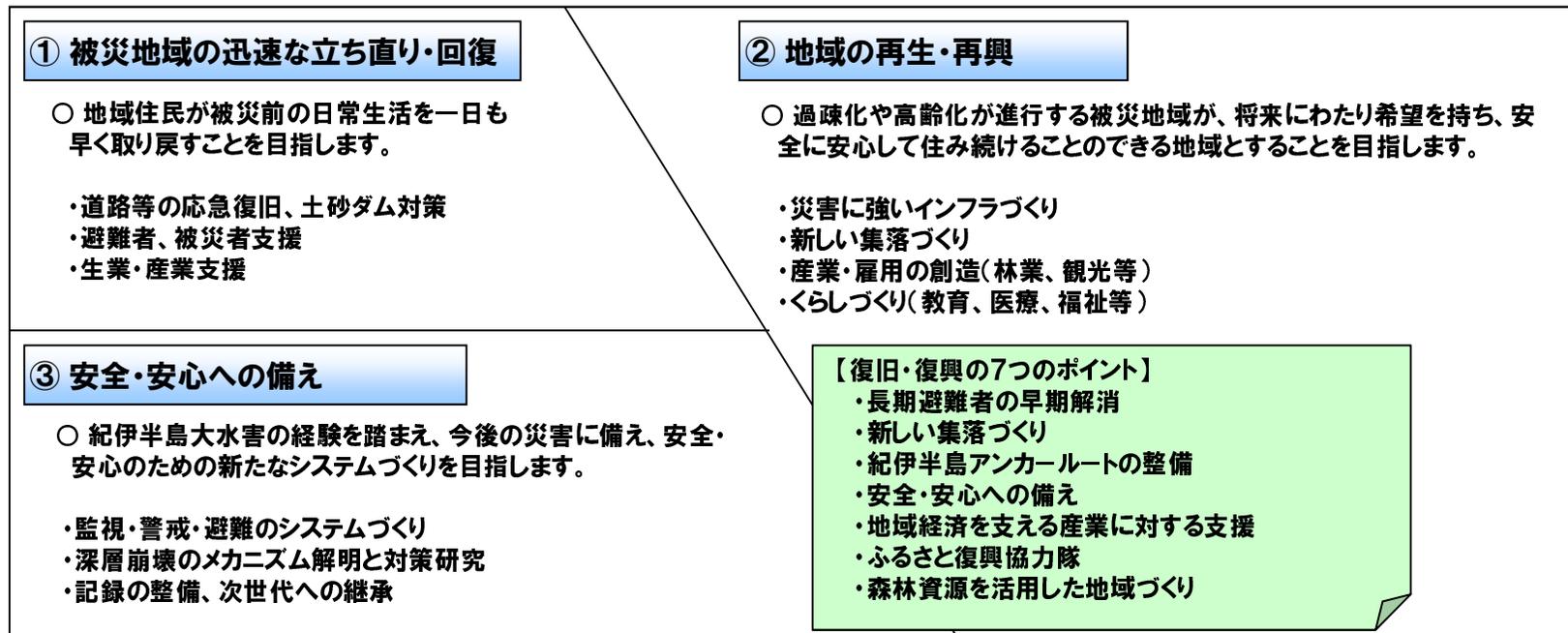
◆基本方針

百年の計に立ち、「災害に強く、希望の持てる」地域を目指す。

◆計画期間：平成23年度～32年度までの10年間



◆復旧・復興に向けた取組方針



◆これまでの復旧・復興の主な動き(計画策定以降)

平成24年

- 3月26日 第6回本部会議
 - ・「復旧・復興計画」及び「同アクション・プラン」の確定について
 - ・平成24年度以降の復旧・復興推進体制について
 - ・(本部会議に計画推進会議及び計画推進チーム(8チーム)を設置)
- 4月 1日 復旧・復興担当副知事を配置
 - ・土木部に深層崩壊対策室設置
 - ・南部農林振興事務所に「復旧・復興調整係」設置
- 4月24日 第23回紀伊半島知事会議
 - ・「災害復旧・復興に係る国の法令等の改善について」の提案を確認
- 5月18日 「災害復旧・復興に係る国の法令等の改善について」の政府提案活動
- 6月 5日 第3回国・三県合同対策会議(東京)
 - ・これまでの取組・成果について
 - ・「災害復旧・復興に係る国の法令等の改善について」の対応
- 6月11日 第7回本部会議
 - ・復旧・復興の現状と取組について
 - ・国・三県合同対策会議について
- 7月 5日 復旧・復興関係の政府提案活動
- 8月31日 避難者の早期帰宅に向けた知事・3市村長 記者会見
- 9月 6日 第1回復旧・復興シンポジウム
- 9月10日 第8回本部会議
 - ・復旧・復興の現状と取組について
- 11月14～16日 復旧・復興関係の政府提案活動
- 11月26日 第9回本部会議
 - ・復旧・復興の現状と取組について
- 12月17日 第2回熊野川堆積土砂対策連絡調整会議

平成25年

- 1月28日 復旧・復興関係の3県(奈良県・和歌山県・三重県)合同政府提案活動
 - ・提案先 国土交通省(鶴保副大臣)、農林水産省(加治屋副大臣)
- 2月 1日 復旧・復興アドバイザーとの意見交換会
- 2月 7日 第3回熊野川堆積土砂対策連絡調整会議
- 2月19日 第10回本部会議
 - ・復旧・復興の現状と取組について
 - ・平成25年度版アクション・プラン
- 4月23日 第24回紀伊半島知事会議
 - ・紀伊半島アンカールートの確保、新宮川水系の総合的治水対策の推進を確認
- 6月13日 第11回本部会議
 - ・復旧・復興の現状と取組について
- 7月10日～11日 復旧・復興関係の政府提案活動
- 9月 2日 第12回本部会議
 - ・復旧・復興の現状と取組について
- 9月 5日 第2回復旧・復興シンポジウム
～インタープリバント2014プレイベント共催～
 - <テーマ>
基調講演:「地域の実情に応じた復興・復旧プロセスとするために」
(長岡造形大学 澤田准教授)
パネルディスカッション:「5年後、10年後を見据えた復興を考える」
 - シンポジウムの開催の様子
場所:かしはら万葉ホール
参加者:403名
- 11月11日 第13回本部会議
 - ・復旧・復興の現状と取組について

◆復旧・復興関係の予算概要

【平成23年度】

・予備費充用額	<u>62百万円</u>
・知事専決処分	<u>6,905百万円</u>
・9月補正予算	<u>7,288百万円</u>
・11月補正予算	<u>18,644百万円</u>
・2月補正予算	<u>501百万円</u>

【平成24年度】

・当初予算額	<u>25,371百万円</u>
・9月補正予算	<u>180百万円</u>
・12月補正予算	<u>192百万円</u>

【平成25年度(平成24年度2月補正予算含む)】

・平成25年度当初予算	21,981百万円
・平成24年度2月補正予算	<u>5,136百万円</u>
合計	<u>27,116百万円</u>

※百万円単位で四捨五入しているため、数値の合計は一致しません。

① 被災地域の迅速な立ち直り・回復

○復旧・復興の推進	113百万円
○道路等の応急復旧、土砂ダム対策	9,087百万円
○避難者・被災者支援	13百万円
○生業・産業支援	142百万円

② 地域の再生・再興

○災害に強いインフラづくり	16,582百万円
○新しい集落づくり	699百万円
○産業・雇用の創造(林業、観光等)	298百万円
○くらしづくり(教育、医療、福祉等)	35百万円

③ 安全・安心への備え

○監視・警戒・避難のシステムづくり、深層崩壊のメカニズム解明と対策研究	136百万円
○記録の整備、次世代への継承	12百万円

・6月補正予算 434百万円

○災害に強いインフラづくり(アンカールート関係)

・9月補正予算 7百万円

○応急仮設住宅の延長

(債務負担行為)
7百万円

◆避難者・仮設住宅の状況

○避難者数

※避難世帯数、避難者数には自主避難を含む

年月日		市町村数	避難所数 (箇所)	避難世帯数 (世帯)	避難者数 (人)
被災直後	H23年 9月5日 11:00	1市 1町 7村	52	359 〔避難勧告・指示対象〕 220	938 〔避難勧告・指示対象〕 691
8月末発表時 (被災1年)	H24年 8月24日	1市 2村	0	170 〔避難勧告・指示対象〕 140	346 〔避難勧告・指示対象〕 275
前回報告	H25年 8月23日	1市 2村	0	96 〔避難勧告・指示対象〕 77	198 〔避難勧告・指示対象〕 150
現在の 状況	H25年 11月15日	1市 2村	0	84 〔避難勧告・指示対象〕 77	176 〔避難勧告・指示対象〕 150

◇被災直後からの増減
世帯数 ▲275
人数 ▲762

◇被災1年からの増減
世帯数 ▲86
人数 ▲170

◇前回報告からの増減
世帯数 ▲12
人数 ▲22

○応急仮設住宅の入居状況(平成25年11月15日現在)

市町村名	仮設 箇所数	25年11月15日現在		前回(25/8/23)		増減	
		世帯数	人数	世帯数	人数	世帯数	人数
五條市	2箇所	33	56	39	67	▲6	▲11
野迫川村	1箇所	25	58	25	58	0	0
十津川村	3箇所	16	37	19	40	▲3	▲3
合計		74	151	83	165	▲9	▲14

(内訳)
五條市 8世帯 16人
十津川村 4世帯 6人

◆避難者の推移及び今後の帰宅等予定時期

【市村別の避難者数の推移】

	五條市		野迫川村		十津川村	
	世帯数	人数	世帯数	人数	世帯数	人数
23年9月（ピーク時※）	105	204	114	239	237	427
24年8月末（被災後1年）	103	189	33	81	34	76
前回報告（8/23）	47	84	27	63	22	51
25年11月15日現在	39	68	27	63	18	45
（ピーク時との増減）	▲ 66	▲ 136	▲ 87	▲ 176	▲ 219	▲ 382

※ピーク時 五條市：9月4日 野迫川村9月4日 十津川村：9月5日

【今後の帰宅等が可能となる目途】

	五條市		野迫川村		十津川村		合計		避難者の推移見込	
	世帯数	人数	世帯数	人数	世帯数	人数	世帯数	人数	世帯数	人数
25年11月末	6	7	0	0	0	0	6	7	78	169
26年3月末	9	20	27	63	18	45	54	128	24	41
26年6月末 ※1	13	20	-	-	-	-	13	20	11	21
26年8月末 ※2	11	21	-	-	-	-	11	21	0	0

※1 「26年6月末」・・・五條市飛養曾・引土地区

※2 「26年8月末」・・・五條市辻堂地区

＜前回からの相違＞

五條市辻堂地区 帰宅時期 前回「26年3月末」から帰宅可能

今回「26年8月末」から帰宅可能

（理由）本年の台風18号被災による、同地区柳谷の堰堤工事完成予定が26年8月となったため。（辻堂地区の詳細は7ページ）

◆避難生活の早期解消に向けた取組の状況

○主な地区の状況(総括表)

地区名	避難指示 勧告 避難世帯 者数	仮設 人居 世帯	関連砂防工事の実施状況	工事の完成予定	復興住宅等の状況	帰宅可能 となる目処
五條市辻堂	指示・勧告 15世帯 26人	11	県砂防工事(鍛冶屋谷) ----- 県砂防工事(柳谷) (台風18号による被災あり)	鍛冶屋谷 堰堤工 (H26.3末完成予定) ----- 柳谷 堰堤工 (H26.8末完成予定)	市内中心部等への転居希望の方 には、既設市営住宅の斡旋等を五 條市が実施	H26.8
五條市宇井・清水 閉君	避難解除済 8世帯 18人	7	河川災害復旧工事 (堆積土砂撤去) 国土交通省大規模崩壊対策 砂防工事	河川は、県道浸水 解消まで復旧 国は、仮設護岸 完成	住宅被害を受けた方には、復興住 宅を五條市が建設 (H26.3完成予定) 市内中心部等への転居希望の方 には、既設市営住宅の斡旋等を五 條市が実施	H26.3
五條市飛養曾・ 引土	勧告 14世帯 22人	14	林野庁治山工事 山腹対策工事实施 市道復旧工事 (12月工事入札予定)	治山工事 (引き続き実施予定) 市道復旧 (H26.6完成見込)	住宅の被災はなし	H26.6
野迫川村北股	指示 27世帯 63人	25	国土交通省及び県の 砂防堰堤工事 (県:イデ谷、国:岩の谷)	県・国堰堤工事 (H26.3完成予定) 復興住宅 (H26.3完成予定)	住宅被害を受けた方には、復興住 宅を野迫川村が建設 (H26.3完成予定)	H26.3

○主な地区の状況

◇辻堂地区 ※避難指示(一部避難勧告)発令中

○避難生活の解消に向けた取組み状況

- ・住宅被害を受けた避難者等は、市内中心部等への転居を希望されていること等から、避難者の要望等に応じた市営住宅等の斡旋等を五條市により実施
- ・地区へ戻ることを希望する住宅被害のない避難者に対する住宅・生活相談を五條市が実施
- ・県と五條市が共同して、地区の復興住環境整備に向けた検討を実施
- ・地区全体の復興集落づくりに向けた取組を支援するため、県が専門コンサルタントによる支援を継続中

○関連する砂防工事等の状況

- ・災害関連緊急砂防事業（県）により鍛冶屋谷及び柳谷の対策工事を実施中。
- ・柳谷は、台風18号により被災（斜面崩壊と土砂の流出）し、これにより、工事完成が約5ヶ月延長する見込み。
- ・国道168号（現道）の通行再開は、平成26年8月末になる見込み

避難世帯	避難者数
15世帯 (うち仮設11世帯)	26人 (うち仮設18人)

(平成25年11月15日現在)

台風18号
被災前

(柳谷)

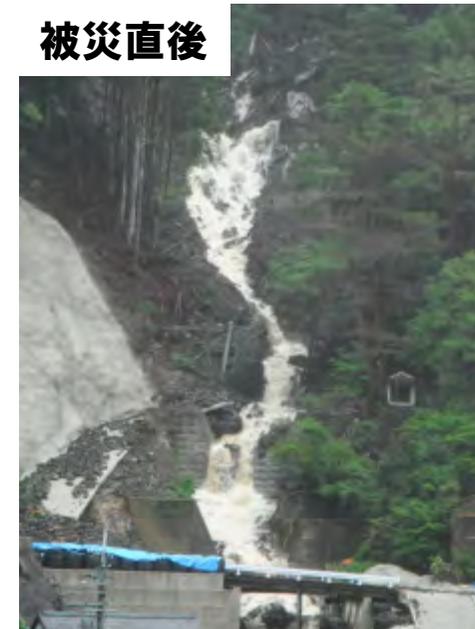


工食用進入路設置状況

平成25年6月18日撮影



被災直後



進入路・現場被災状況 平成25年9月16日撮影 7

◇宇井・清水・閉君地区 ※避難指示・避難勧告は解除済み

○避難生活解消及び集落復興に向けた取り組み状況

- ・対策工事の完了により、平成24年11月1日に避難勧告を解除済み
- ・平成25年3月に小規模住宅地区改良事業の事業計画を策定
- ・阪本(天辻)地区・宇井地区に復興住宅を平成26年3月完成を目標に市が建設
- ・生活再建に必要な地区の住環境整備も市が推進
- ・天辻地区では、平成25年8月より敷地造成工事を市が実施中 (敷地内擁壁が完成)
- ・宇井地区でも、平成25年8月より敷地造成工事を市が実施中
- ・市内中心部への転居希望の方に対しては、市営住宅等の斡旋等を五條市が実施
- ・市の復興住宅建設関連事業を支援するため、県が専門コンサルタントを派遣

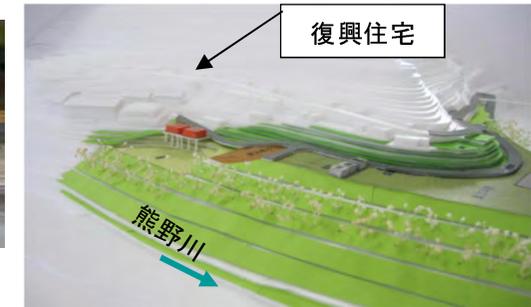


天辻地区敷地内擁壁が完成
(平成25年10月18日撮影)

避難世帯	避難者数
8世帯 (うち仮設7世帯)	18人 (うち仮設16人)

(平成25年11月15日現在)

■宇井・清水地区の事業計画を踏まえた集落検討模型



※事業計画の内容や配置計画については、地域住民との協議、調整により変更となる可能性あり。

○避難解除に向けた対策の取組状況

- ・河川災害復旧事業(県)により熊野川の堆積土砂撤去を実施し、県道高野辻堂線が浸水しない程度まで復旧済み。
- ・直轄特定緊急砂防事業(国)により、大規模崩壊箇所の仮設護岸工は平成24年10月に完成、上部法面工を実施中。
- ・平成25年9月の18号台風の影響により、仮設護岸170mが被災。現在被災箇所の復旧と補強を実施中。なお、事業全体の工程には影響しない。

被災直後



平成23年10月19日撮影

現状



平成25年10月21日撮影(斜面对策状況)



平成25年10月18日撮影
(河川堆積土砂暫定掘削完了)

◇飛養曾・引土地区 ※避難勧告発令中

○避難生活の解消に向けた取り組み状況

- ・地すべり対策工事（国）の進捗を踏まえ、H25.6.1付けで「避難指示」から「避難勧告」へ変更。「朝」「昼」「夕」の時間帯で通行可能な時間を設定し、住民の一時帰宅は可能となった。
（※飛養曾・引土地区の住宅の被災は無し）
- ・市、県、国（国交省、林野庁）による「避難勧告等の解除に向けた検討会」を設置（H25.8.6）。避難勧告解除時期の検討を進める。
第2回検討会（H25.9.30）で、避難勧告解除に向け、他地区の事例を共有

○関連する工事等の状況

- ・直轄治山災害関連緊急事業（国）により山腹の対策工事を実施。今年度も、直轄治山事業で引き続き対策工事を実施中。
- ・市道川西線の災害復旧工事（市）については近接する直轄治山工事との工事間調整を行う必要があるため、平成25年12月初旬の入札契約予定。平成26年6月完成見込。
- ・林野庁、県農林、専門家による地すべり検討会実施（H25.10.22～23）

避難世帯	避難者数
14世帯 （うち仮設14世帯）	22人 （うち仮設21人）

（平成25年11月15日現在）



土砂掘削作業中 平成25年8月20日撮影



被災直後



市道 川西線

平成23年9月20日撮影



現状



防護柵（完成） 平成25年5月16日 撮影



受圧板設置中 平成25年10月22日撮影

◇野迫川村北股地区 ※避難指示発令中

○避難生活解消及び集落復興に向けた取り組み状況

- ・平成25年3月に小規模住宅地区改良事業の事業計画を策定。
- ・旧北股小学校周辺で平成26年3月を目標に復興住宅を村が建設。
- ・生活再建に必要な北股地区全体の住環境整備も村が推進。
- ・平成25年9月より復興住宅敷地造成工事を野迫川村が実施中。
- ・平成25年9月に復興住宅及び道路予定区域内にあるプール及び体育館の解体撤去を完了
- ・県が専門のコンサルタントに委託し、村の復興住宅関連事業を支援。

避難世帯	避難者数
27世帯 (うち仮設住宅25世帯)	63人 (うち仮設住宅58人)

(平成25年11月15日現在)

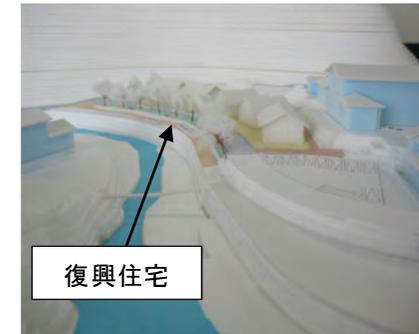
■北股地区復興住宅建設用地を含む周辺状況



プール及び体育館の解体前



解体後 (平成25年10月22日撮影)

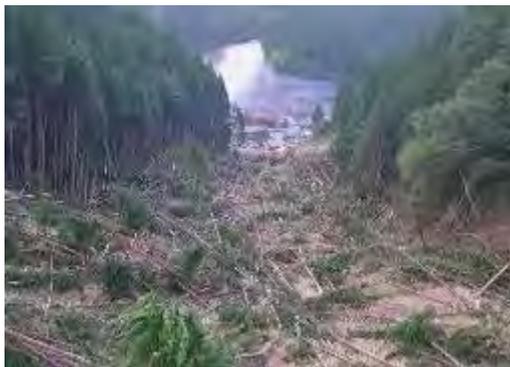


■北股地区の事業計画を踏まえた集落検討模型
※事業計画の内容や配置計画については、地域住民との協議、調整により変更となる可能性あり

○関連する工事等の状況

- ・直轄特定緊急砂防事業 (国) により岩谷の対策工事を実施中、平成25年度末に堰堤工を完了予定
- ・砂防事業 (県) によりイデ谷の対策工事を実施中、平成25年度末に堰堤工を完了予定

被災直後 (岩谷)



平成23年9月6日撮影

現状



平成25年10月24日撮影 (上流より)

■岩谷(国工事)の対策工事の状況



平成25年10月24日撮影 (下流より)

○十津川村での新しい集落づくりに向けた取組状況

避難世帯	避難者数
18世帯 (うち仮設住宅16世帯)	45人 (うち仮設住宅37人)

(平成25年11月15日現在)

◇復興住宅の建設について

- ・谷瀬地区、猿飼(高森)地区に、住宅被害を受けた被災者向けの復興住宅の建設を計画。平成25年11月末以降、順次完成予定。
- ・村と地元工務店等が連携し、十津川村の伝統形式による復興モデル住宅が平成25年7月に竣工。
- 完成見学会を開催(平成25年8月)、**地域住宅計画賞を受賞(平成25年10月)**。このモデル住宅で被災者のために住宅相談会等を開催している。

■復興モデル住宅の状況



復興住宅の設計の過程での地元工務店とのワークショップの様子



完成した復興モデル住宅



地域住宅計画賞を受賞

■復興住宅の建設状況

- ・村の復興住宅建設関連事業を支援するため、県が専門のコンサルタントを村に派遣。
- ・復興公営住宅の建設を村が実施中
 谷瀬地区 4戸
 猿飼(高森)地区 9戸



建設前(猿飼地区)



現状(平成25年10月31日撮影)

○十津川村での新しい集落づくりに向けた取組状況

◇中間多機能施設等の検討について

- ・住民の生活を支え、村の芯となる集落づくりに向け、復興住宅の建設を行う谷瀬地区、猿飼(高森)地区に交流広場、共同農地、医療・福祉等の安心拠点機能や施設の整備などを平成25年度内に検討
- ・復興モデル住宅から復興住宅、安心拠点機能の整備等に至る復興集落づくりに村民一丸となって取り組めるよう、村が復興モデル住宅ニュースを創刊



復興モデル住宅ニュース

- ・村が行う復興集落づくりに向けた取組の、事業進捗を促すため、県が、専門技術的な支援ができるコンサルタントに委託し支援を継続中。
- ・学識経験者と村関係課で組織する「活力と魅力あふれる村づくり推進委員会」を村が設置し、集落景観に馴染んだ復興住宅のプラン、住民の安心・安全、林業の6次産業化等産業づくり、観光資源の活用などについて議論
- ・助け合い・いたわりあいプロジェクトとして、学識経験者、大学と連携し、高齢者実態把握調査、分析を行って地域福祉の充実に向けた検討を実施中



「活力と魅力あふれる村づくり推進委員会」の様子(十津川村役場にて)



助け合い・いたわりあいプロジェクトで、意見交換をする大学生他(十津川村役場にて) 12

◆インフラ等の復旧状況(大規模崩壊への対策)

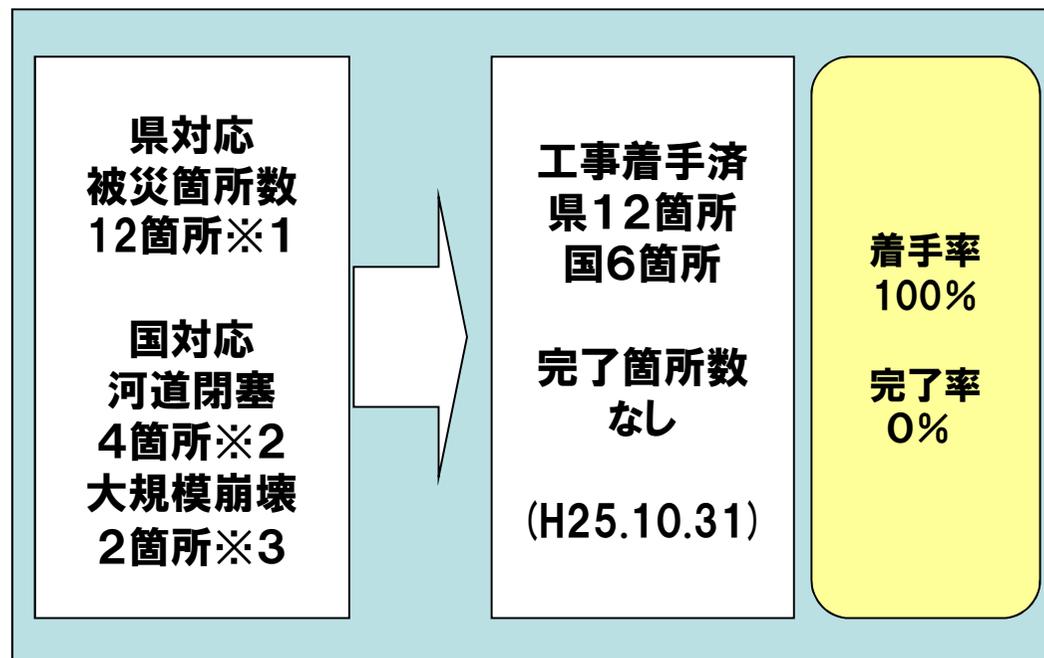
○県による大規模崩壊への対応12箇所（災害関連緊急事業:H26年度までに完了※）

- ※1 五條市大塔町辻堂柳谷・鍛冶屋谷
御杖村土屋原
黒滝村赤滝、中戸
天川村広瀬
十津川村重里、小井、折立、
宇宮原、今西
東吉野村麦谷

※(山腹工等は通常砂防事業で引き続き実施)

○国による河道閉塞・大規模崩壊 対策6箇所:H28年度完了

- ※2 五條市赤谷
野迫川村北股
十津川村長殿、栗平
- ※3 五條市清水（宇井）
天川村坪内



【前回(9月)との比較】
全箇所工事着手済

目標:平成28年度

県による復旧・対策状況

箇所名	完成目標	H25年度 工事実施内容	H24年度までの進捗状況	H25 台風18号の影響	被害内容
五條市大塔町辻堂柳谷	26年度	災関堰堤工、山腹工	災関堰堤着手	○	法面崩壊、 工事用道路の破損
五條市大塔町辻堂鍛冶屋谷	26年度	災関堰堤工、現国道の復旧、山腹工	災関堰堤着手	○	床堀箇所への土砂流入
御杖村土屋原	26年度	堰堤工、溪流保全工	災関堰堤完成、2号堰堤着手		
黒滝村赤滝	26年度	災関堰堤工、堰堤工、付替村道	災関堰堤着手	○	付替道路、 工事用道路の破損
黒滝村中戸	26年度	災関堰堤工、前提保護工	災関堰堤着手	○	床堀箇所への土砂流入
天川村広瀬(地すべり対策工事)	25年度	アンカー工	抑制工完成、抑止工に着手済		
十津川村重里	26年度	災関堰堤工、溪流保全工、橋梁工	災関堰堤着手		
十津川村小井(地すべり対策工事)	26年度	アンカー工	抑制工完成、抑止工に着手済		
十津川村折立(地すべり対策工事)	26年度	押さえ盛土工、アンカー工	抑制工完成	○	工事用道路の流出
十津川村宇宮原(地すべり対策工事)	26年度	押さえ盛土工、アンカー工	抑制工完成、抑止工に着手済	○	床堀箇所への土砂流入、 ブロック破損
十津川村今西(地すべり対策工事)	26年度	アンカー工	抑制工完成、抑止工に着手済		
東吉野村麦谷	26年度	堰堤工、除石工	災関堰堤完成、2号堰堤着手		

紀伊半島大水害被災箇所における 台風18号による被害状況

赤滝



宇宮原



○砂防堰堤による被害軽減効果

・復旧工事途中の施設が新たな災害を低減(黒滝村赤滝)

災害関連緊急砂防事業で設置した砂防堰堤(平成25年8月完成)が今回の台風18号時の土石流を捕捉し、下流側集落の被害を軽減。一部流出した土石流により道路損傷や集落附近の河道内の土砂堆積による河床上昇が見られたものの、土石流による人家への直接被害を防いだ。

航空写真(H23.9撮影)



国による復旧状況

箇所名	完成目標	H25工事実施内容	H24までの進捗状況	備考	H25 台風18号の影響
赤谷(五條市大塔町)	28年度	砂防堰堤工	仮排水路工完成、砂防堰堤工着手	河道閉塞	○
清水[宇井](五條市大塔町)	28年度	上部法面工	仮設護岸工完成、上部法面工着手	大規模斜面崩壊	
北股(野迫川村)	28年度	砂防堰堤工	仮排水路工完成、砂防堰堤工着手	河道閉塞	
坪内(天川村)	28年度	上部法面工、河道拡幅	仮設護岸工完成、河道拡幅着手	大規模斜面崩壊	
長殿(十津川村)	28年度	砂防堰堤工	仮排水路工完成、砂防堰堤工着手	河道閉塞	
栗平(十津川村)	28年度	砂防堰堤工、 湛水地の水位低下対策	仮排水路工完成、砂防堰堤工着手	河道閉塞	

赤谷地区状況



平成25年10月24日撮影(排水路下流部)

長殿地区状況



平成25年10月24日撮影(堰堤設置箇所)

栗平地区状況



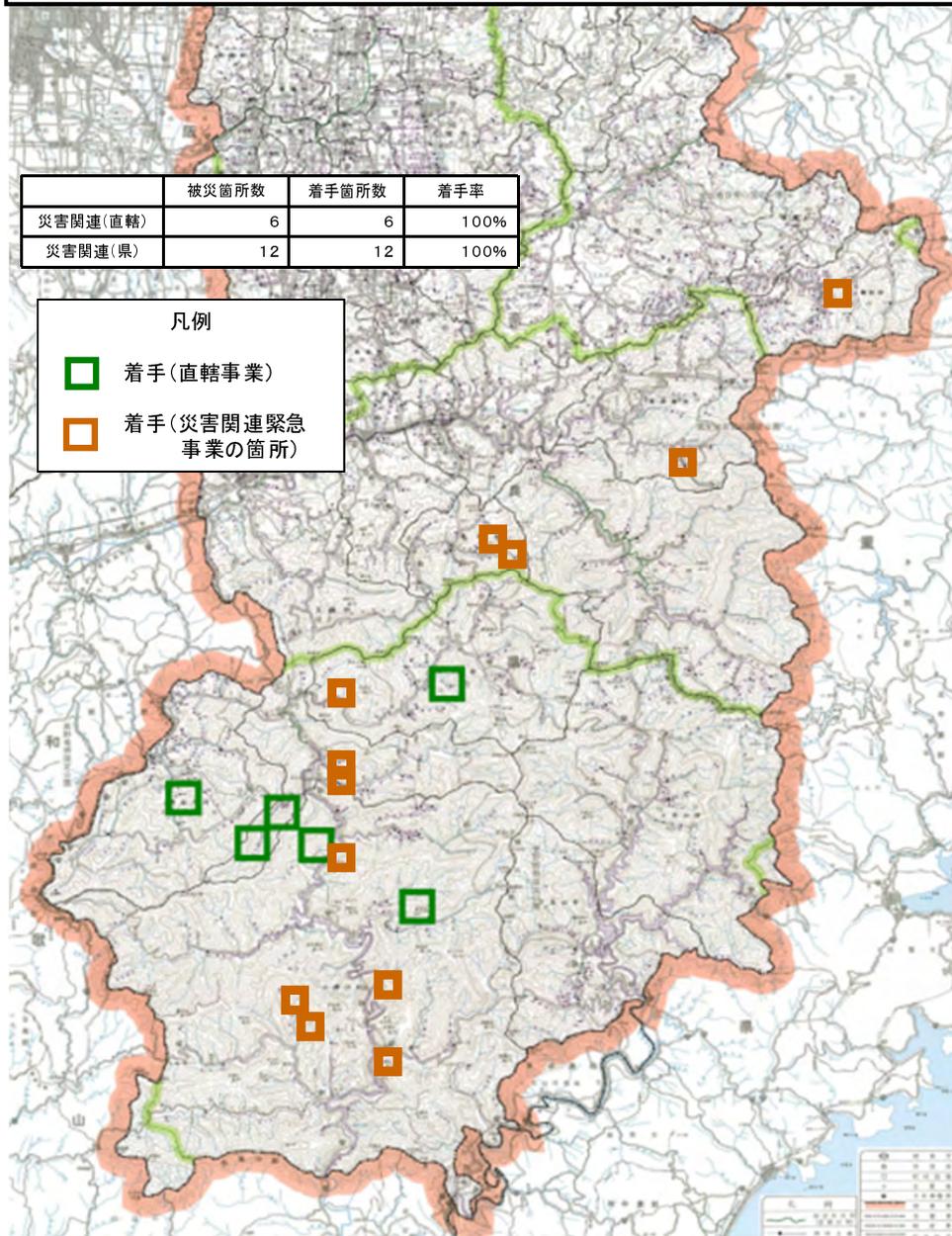
平成25年10月18日撮影(排水路状況)

※平成25年9月台風18号の影響により、赤谷地区は崩壊斜面が再崩落し、仮排水路に土砂が堆積。現在は堆積土砂除去等を実施中。

大規模崩壊への対策の進捗状況

	被災箇所数	着手箇所数	着手率
災害関連(直轄)	6	6	100%
災害関連(県)	12	12	100%

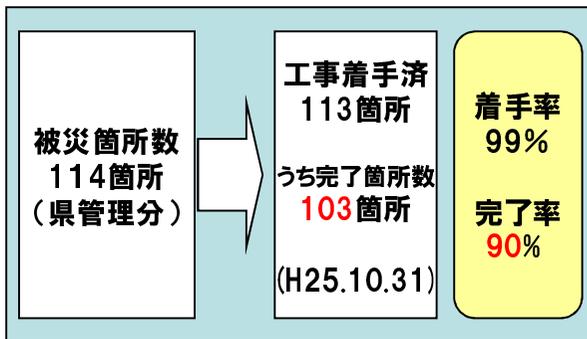
- 凡例
- 着手(直轄事業)
 - 着手(災害関連緊急事業の箇所)



◆インフラ等の復旧状況(河川・砂防)

・河川・砂防の災害復旧事業も概ね着手、完了箇所も着実に増加(平成25年度末に完了)

河川・砂防の災害復旧事業



【前回(9月)との比較】

工事着手済 113箇所 → 113箇所

うち完了 100箇所 → 103箇所

前回以降の主な完了箇所

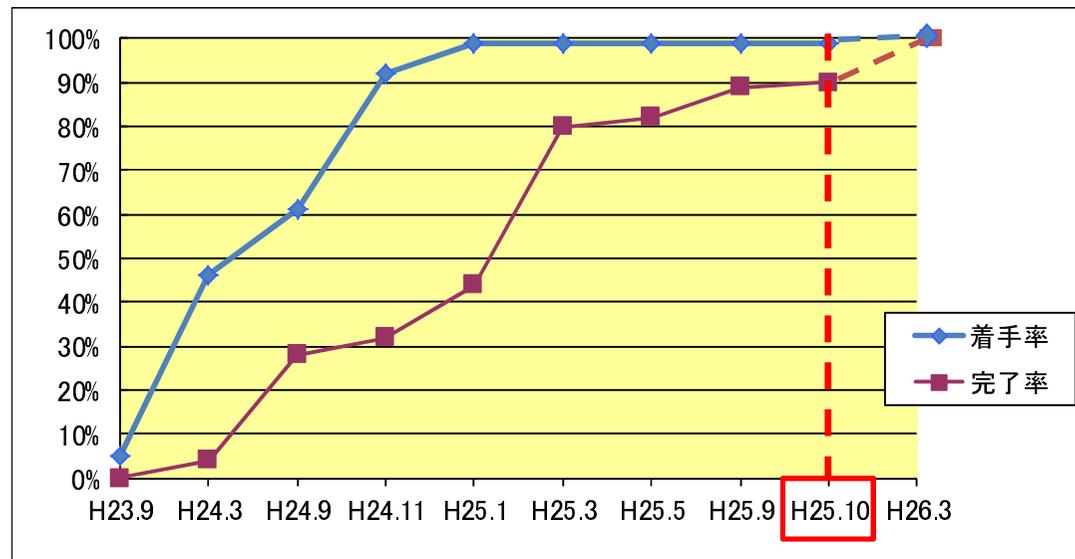
- ・西川 (五條市大塔町清水)
- ・熊野川 (十津川村滝川)

着手率 99% → 99%

完了率 88% → 90%

堆積土砂除去量
56% 撤去完了
(H25.10末現在)

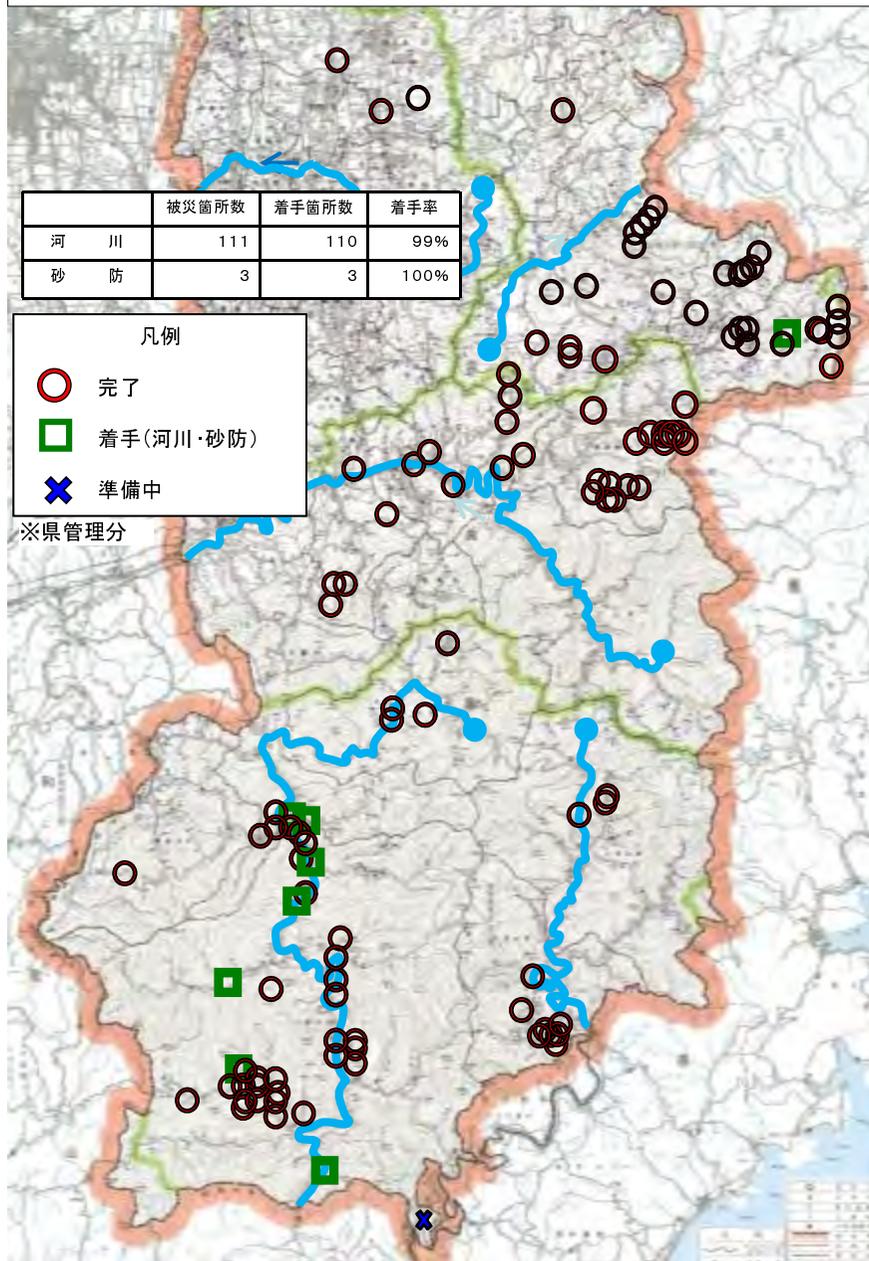
進捗状況(実績と今後の予定・見込み)



	合計	H23.9	H24.3	H24.9	H24.11	H25.1	H25.3	H25.5	H25.8	H25.9	H25.10	H26.3
着手済	114	6	52	70	105	113	113	113	113	113	113	114
着手率		5%	46%	61%	92%	99%	99%	99%	99%	99%	99%	100%
完了済	114	0	4	32	36	50	91	93	100	101	103	114
完了率		0%	4%	28%	32%	44%	80%	82%	88%	89%	90%	100%

目標値

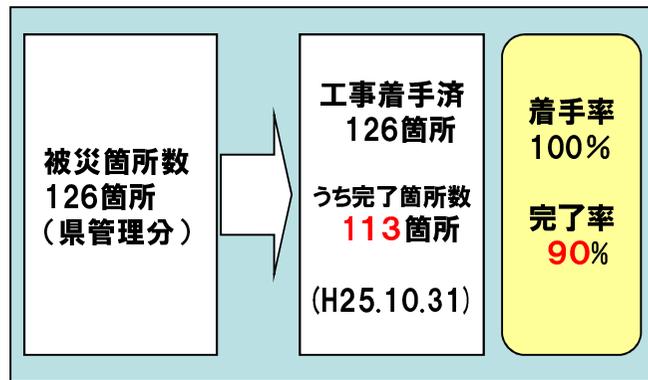
公共土木施設等における災害復旧事業の進捗状況
(河川・砂防事業等)



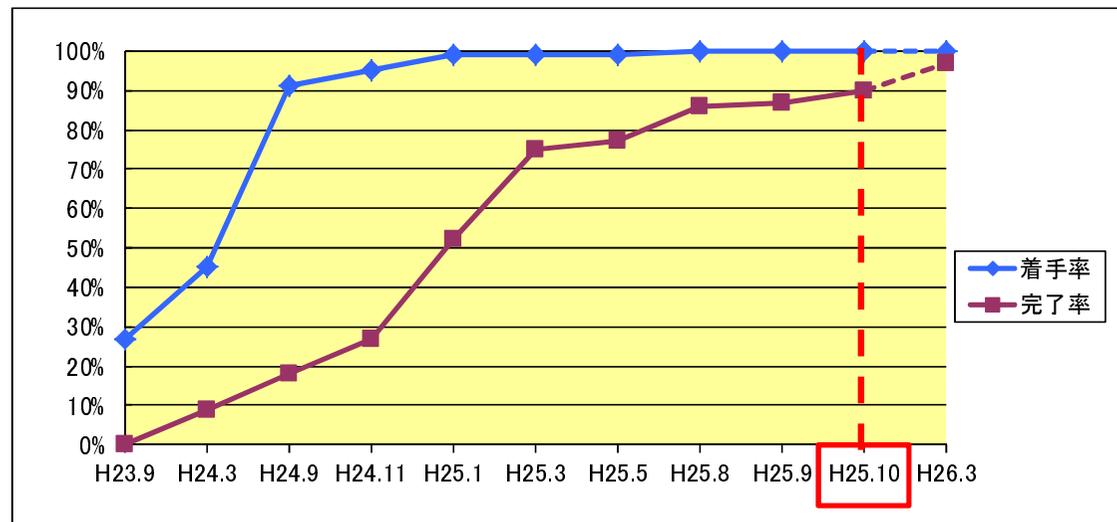
◆インフラ等の復旧状況(道路)

- ・道路の応急復旧はほぼ完了(国道168号・169号など、主要な道路は全て通行可)
- ・道路の災害復旧事業も、概ね順調に進捗(平成24年度末に約8割、25年度末にほぼ完了)

道路の災害復旧事業



進捗状況(実績と今後の予定・見込み)



【前回(9月)との比較】

工事着手済 126箇所 → 126箇所

うち完了 108箇所 → **113箇所**

前回以降の主な完了箇所

- 〔国道425号(十津川村迫西川)〕
- 〔桜井明日香吉野線(吉野町吉野山)〕

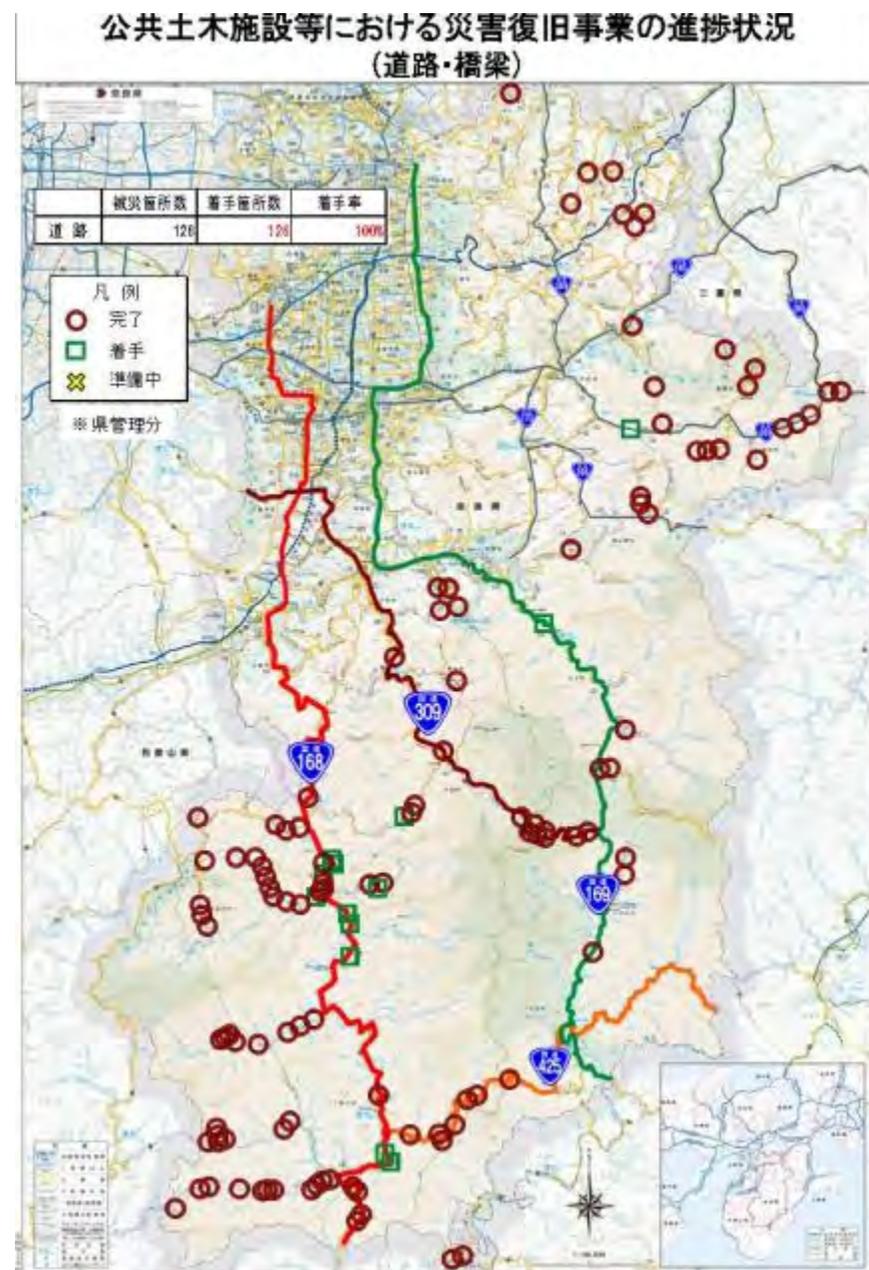
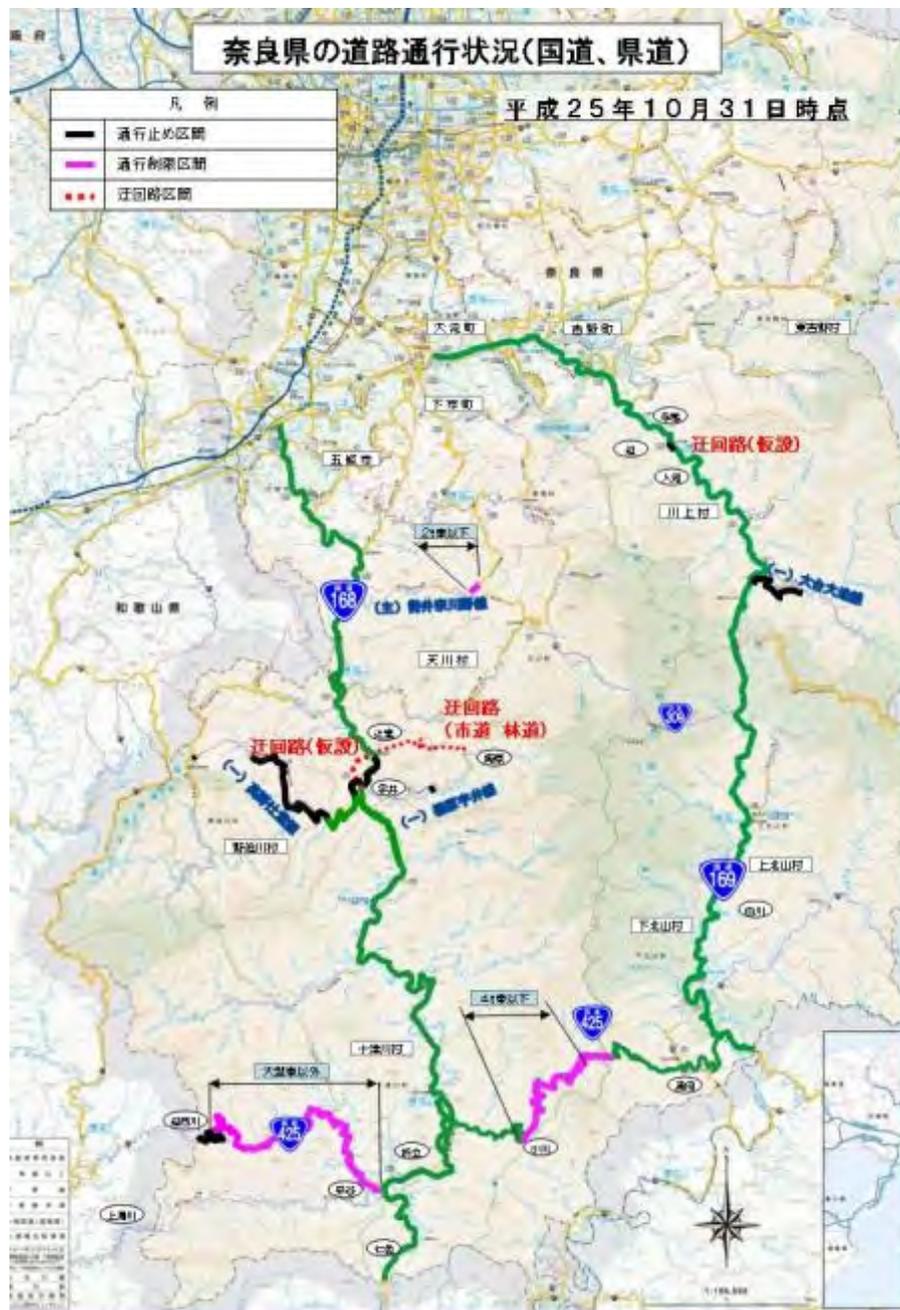
着手率 99% → 100%

完了率 86% → **90%**

	合計	H23.9	H24.3	H24.9	H24.11	H25.1	H25.3	H25.5	H25.8	H25.9	H25.10	H26.3
着手済	126	34	57	115	120	125	125	125	126	126	126	126
着手率		27%	45%	91%	95%	99%	99%	99%	100%	100%	100%	100%
完了済	126	0	11	23	34	65	95	97	108	110	113	122
完了率		0%	9%	18%	27%	52%	75%	77%	86%	87%	90%	97%

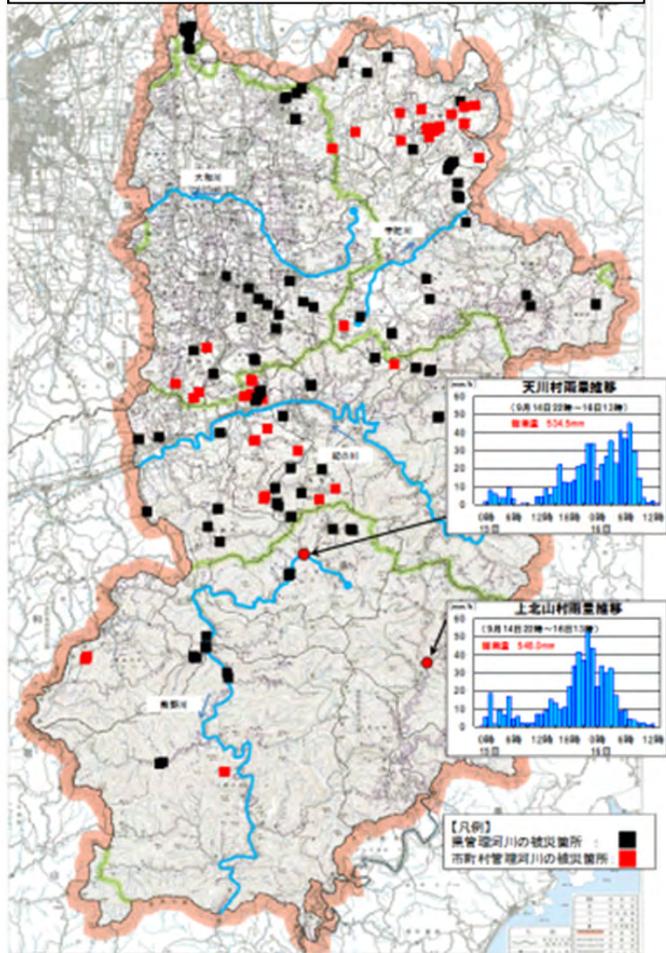
目標値

※平成26年度も継続する4箇所は、高野天川線、篠原宇井線、国道169号(川上村迫)国道369号(宇陀市榛原内牧)



◆台風18号による被災状況

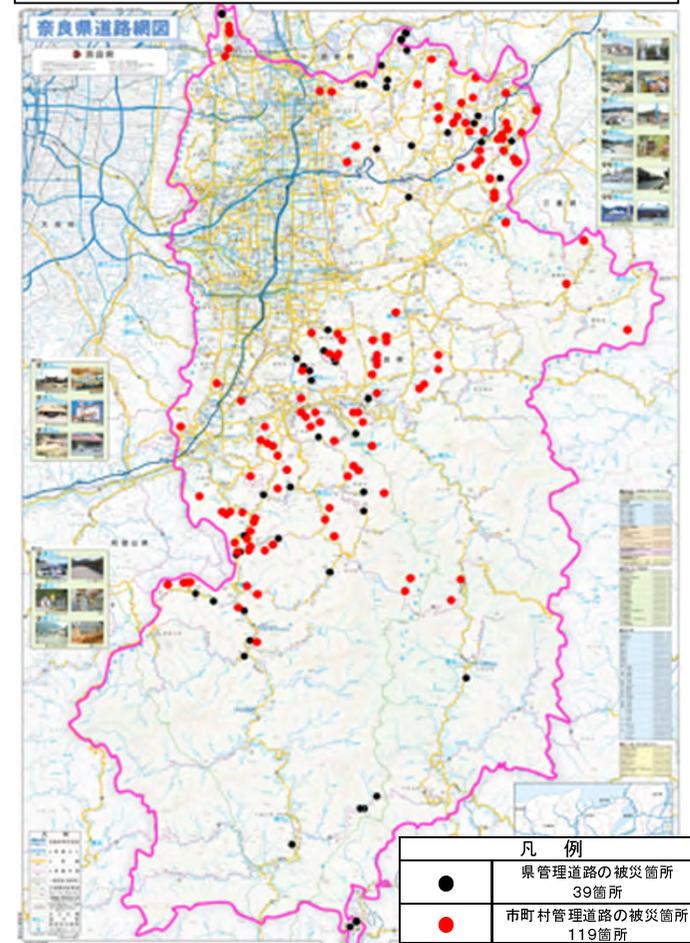
県内の河川に関する被災状況



※台風18号による河川・砂防の公共土木施設の被災箇所数は117箇所(大和平野含む)

※台風18号による主な被災箇所
 丹生川(黒滝村寺戸)、熊野川(十津川村宇宮原)、
 神納川(十津川村内野)

県内の道路に関する被災状況

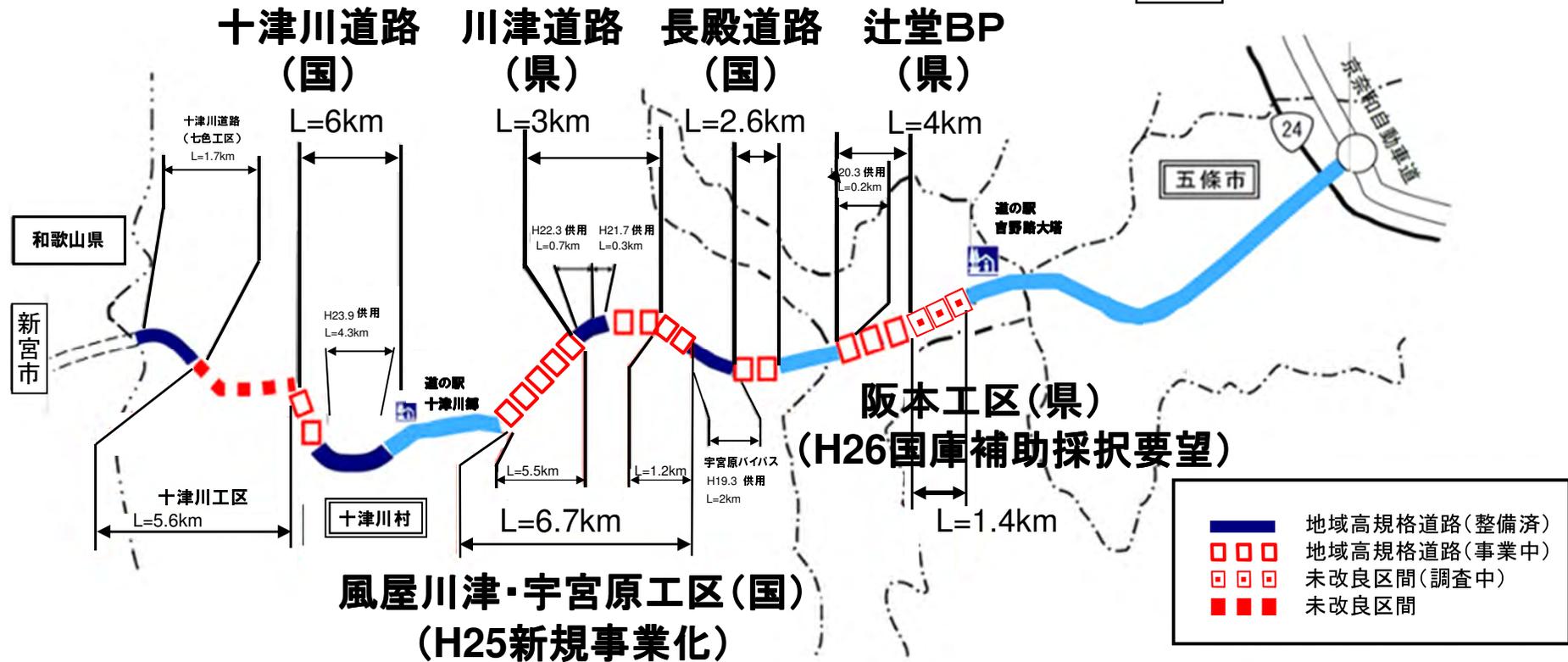
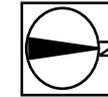


※台風18号による道路の公共土木施設の被災箇所数は39箇所(大和平野含む)

※台風18号による主な被災箇所
 国道168号(五條市西吉野町西野)、
 桜井明日香吉野線(吉野町吉野山)、高野天川線(天川村坪内)

◆地域の再生・再興(紀伊半島アンカールート)

紀伊半島アンカールート 国道168号五條新宮道路の進捗状況



(十津川道路) 折立地区の施工状況



(川津道路) 施工状況



(辻堂バイパス) 新猿谷トンネル南側付近の施工状況

◆国道168号雨量通行規制区間の見直し

現状と課題

十津川村内の一般国道168号においては、豪雨等の異常気象時における道路の通行規制区間が村全域に亘っており、村内2箇所の観測所のいずれかの雨量が規制値を超えると村全体が通行止めとなるなど、一般通行、住民生活への影響が大きい。

見直し内容

平成25年5月23日に通行規制の見直しを実施

○これまでの規制基準

規制区間 十津川村七色(和歌山県界)～五條市大塔町宇井
規制延長 53.8km
規制基準 (通行止め)連続雨量110mm 時間雨量25mm
気象観測所 五條土木事務所十津川復旧復興課(十津川村上野地)、平谷雨量観測所

○見直し後の規制基準(規制区間を分割)

規制区間① 十津川村七色(七色高架橋北詰)～十津川村小原(土津川村役場)

規制延長 20.0km(十津川道路、七色高架橋は含まない)
規制基準 (通行止め)連続雨量110mm 時間雨量25mm
気象観測所 平谷雨量観測所

規制区間② 十津川村小原(土津川村役場)～五條市大塔町宇井

規制延長 31.5km
規制基準 (通行止め)連続雨量110mm 時間雨量25mm
気象観測所 五條土木事務所十津川復旧復興課(十津川村上野地)

成果

・規制分割運用 区間① H25.6.20.13時開始
区間② 6.21.3時開始
区間②は約14時間の規制時間短縮となった

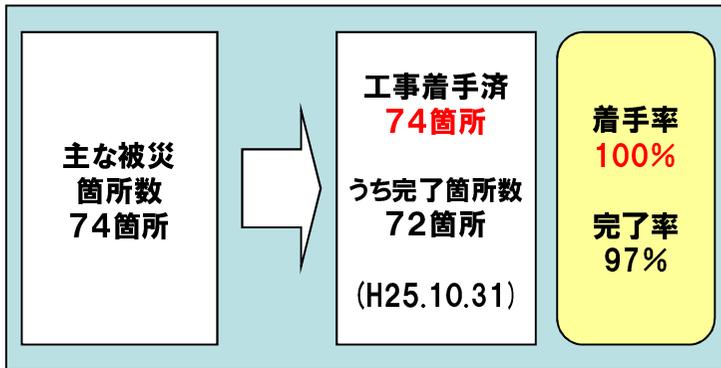
規制区間図面



◆農林業関係の復旧状況

・農地、農業用施設、林道などの復旧は、概ね順調に進んでいる。

○ 農地

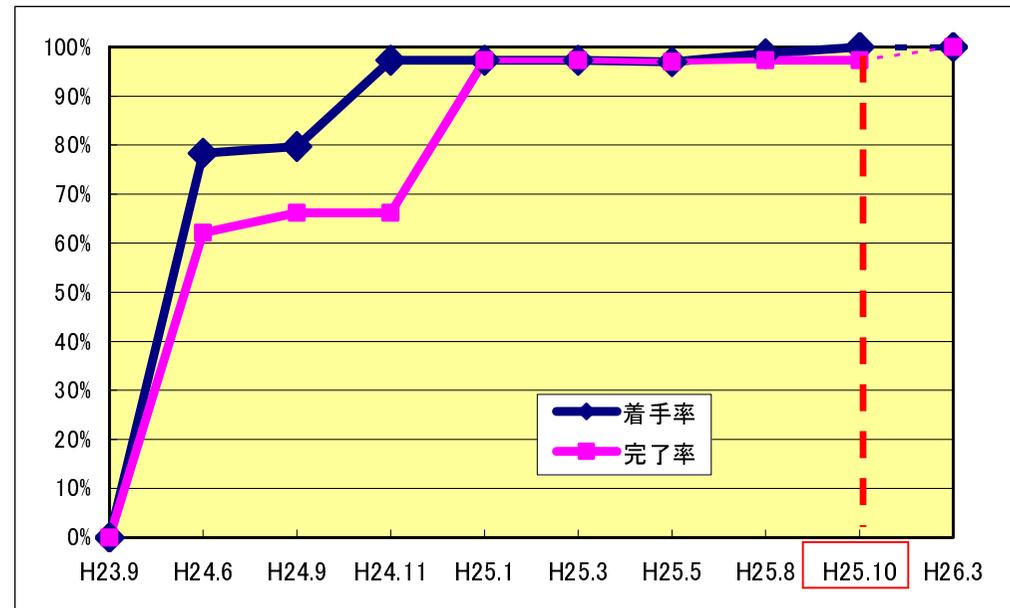


【前回(8月)との比較】

工事着手済 73箇所 → 74箇所
 (前回以降の着手箇所)
 野迫川村(ワサビ田)

工事完了済 72箇所(前回と変更なし)

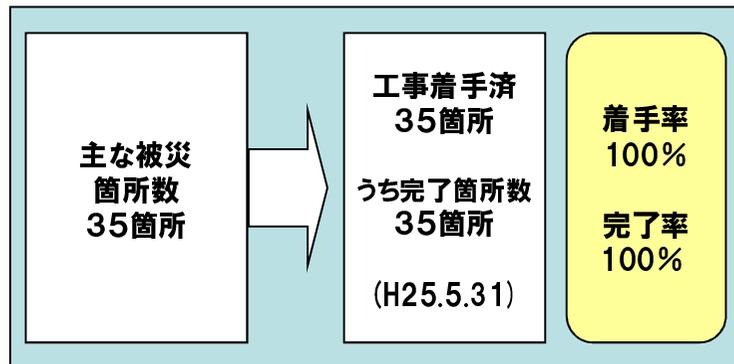
進捗状況(実績と今後の予定・見込み)



	合計	H23.9	H24.6	H24.9	H24.11	H25.1	H25.3	H25.5	H25.8	H25.10	H26.3
着手済	74	0	58	59	72	72	72	72	73	74	74
着手率		0%	78%	80%	97%	97%	97%	97%	99%	100%	100%
完了済	74	0	46	49	49	72	72	72	72	72	74
完了率		0%	62%	66%	66%	97%	97%	97%	97%	97%	100%

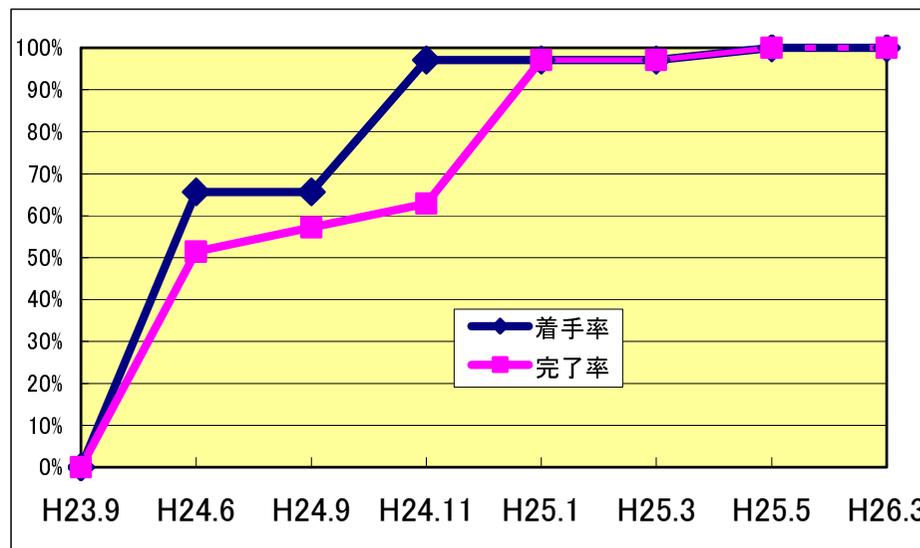
目標値

○ 農業用施設(農道・水路・ため池)



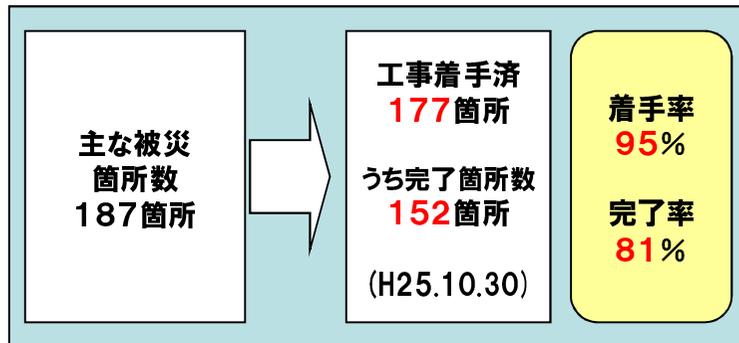
全て完了済み

進捗状況(実績と今後の予定・見込み)

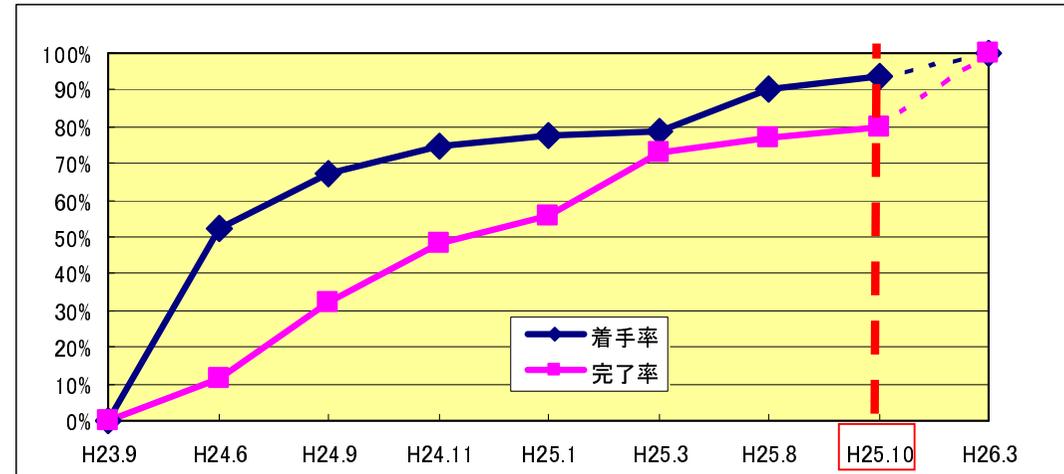


	合計	H23.9	H24.6	H24.9	H24.11	H25.1	H25.3	H25.5	H26.3
着手済	35	0	23	23	34	34	34	35	35
着手率		0%	66%	66%	97%	97%	97%	100%	100%
完了済	35	0	18	20	22	34	34	35	35
完了率		0%	51%	57%	63%	97%	97%	100%	100%

○ 林道



進捗状況(実績と今後の予定・見込み)



【前回(9月)との比較】

工事着手済 169箇所 → 177箇所

前回以降の主な着手箇所

- 〔 十津川村川津今西線7号箇所 〕
- 〔 十津川村果無谷線3号箇所 〕

うち完了 144箇所 → 152箇所

前回以降の主な完了箇所

- 〔 十津川村川津今西線10号箇所 〕
- 〔 野迫川村タイ谷線1号箇所 〕

着手率 90% → 95%

完了率 77% → 81%

	合計	H23.9	H24.3	H24.9	H24.11	H25.1	H25.3	H25.8	H25.10	H26.3
着手済	187	0	98	126	140	145	147	169	177	187
着手率		0%	52%	67%	75%	78%	79%	90%	95%	100%
完了済	187	0	21	60	90	104	137	144	152	187
完了率		0%	11%	32%	48%	56%	73%	77%	81%	100%

林道川津今西線10号箇所 (十津川村今西地区)

被災直後



被災後 平成23年9月14日撮影

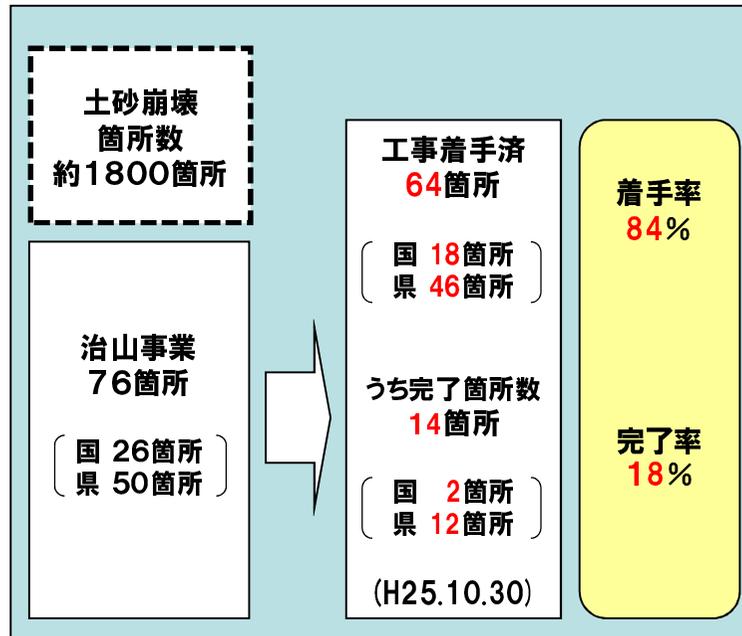
現状



完了後 平成25年9月5日撮影

目標値

○ 治山



※事業箇所はH23補正予算、H24予算(当初+補正)、H25当初予算までの対応箇所(H26以降の箇所数は未定)

前回(9月)以降の主な着手箇所

- 川上村井光
- 十津川村猿飼
- 天川村中谷ヤシキサコ

前回(9月)以降の主な完了箇所

- 東吉野村木津
- 吉野町菜摘
- 十津川村桑畑

○主な治山工事の状況

曾爾村 (長野地区)

○工事状況

- ・災害関連緊急治山事業(県)により対策工事を実施
- 平成24年度に谷止工を施工(完成)
- 平成25年度に山腹工を施工(完成)
- 平成26年度以降も下流側の谷止工を施行予定

被災直後



被災後 平成23年10月12日撮影

現状



平成25年9月30日撮影
山腹工(完成)

十津川村 (桑畑地区)

○工事状況

- ・平成24年度に山腹工を施工(一部分完成)
- 平成25年度に山腹工を施工(残り部分完成)
- ・平成24、25年度で事業完了

被災直後



工事着手前 平成24年7月6日撮影

現状



平成25年10月1日撮影
山腹工(完成)

◆産業の復興状況

企業再建の状況(1)

再建状況調査

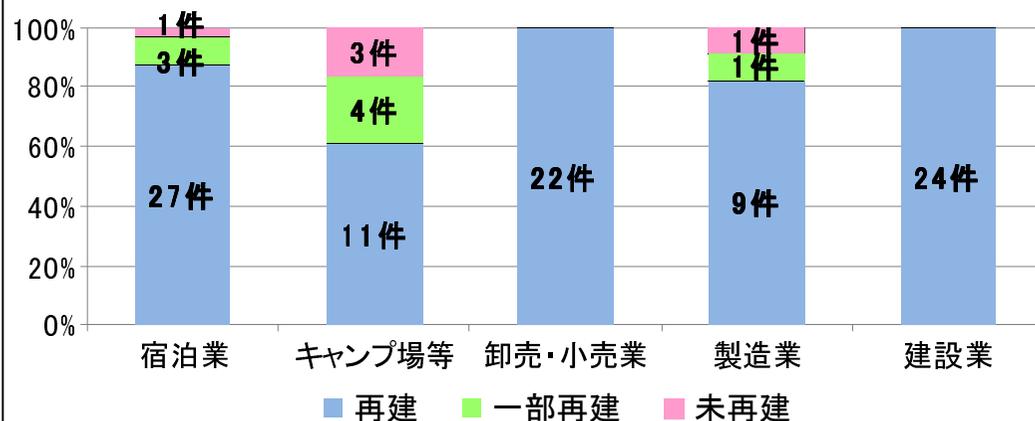
- ・再建意欲のある被災中小企業者等の**95.3%**(前回は**93.5%**)は事業を再建。(キャンプ場等、製造業で廃業が2件増加。)
- ・業種別では、卸売・小売業、建設業は**100%**再建。

H25.11.1現在

被害件数A	再建業者数B	一部再建C	廃業D	再建率 $\frac{B+C}{A-D}$
122	97	4	16	95.3%

※廃業の理由: 経営者等の死亡4件、施設・設備の修復を断念8件、高齢による4件

業種別再建率



被災地での聞き取り調査(H25.9.3五條市大塔町)

企業再建の状況(2)

災害復旧対策資金貸付

○貸付実績(H23.11~H25.9末)

件数 **170件**

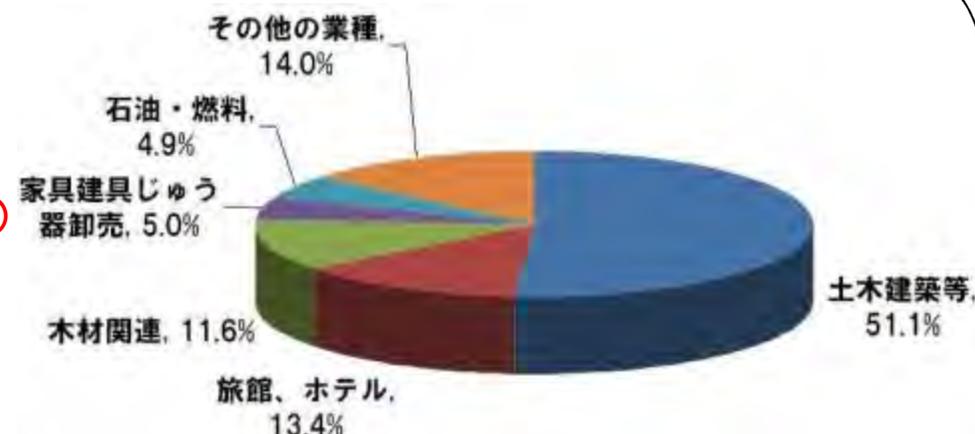
貸付額 **4,537百万円**

(前回報告(7月末実績)以降の新規貸付が1件増)

○被災中小企業者等による資金の借入れが進み、
H24.7以降の新規貸付は減少

○貸付実績の多い業種

土木建築等 51.1% 旅館・ホテル13.4%



被災地域の物産販売促進支援

物産展等の開催経費を市町村に対し支援

○平成25年度 執行予定額 9,977千円

- ・実施市町村 1市1町7村(五條市・吉野町・黒滝村・天川村・野迫川村
十津川村・上北山村・川上村・東吉野村)

・物産展出展予定

H25.11.23~24 なんゆう祭(川上村)

H26. 1.11~12 町イチ!村イチ!2014(東京国際フォーラム)

H26. 3.15~16 旅まつり名古屋2014(久屋大通公園)

他



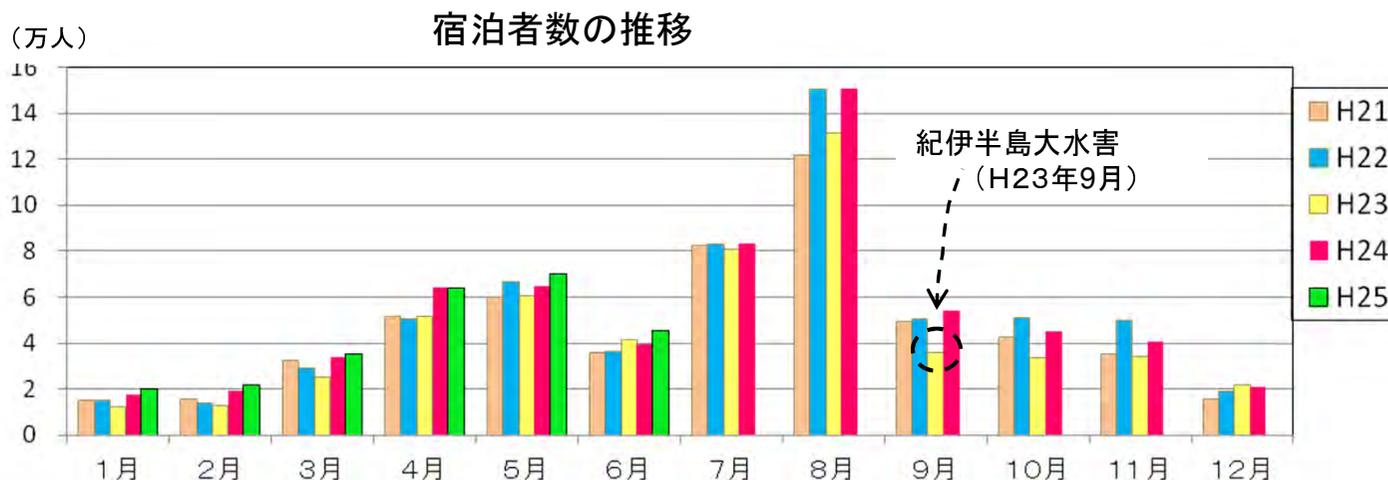
H25.10.26~27

「奈良まほろば市」での物産展開催の様子

◆観光業の復興状況

宿泊客数の動向

- ・県の南部・東部地域の宿泊客は、被災直後の平成23年9月～11月に大きく減少
- ・観光プロモーション、プレミアム宿泊旅行券発行、南部地域での会議の開催支援などの取組を実施
- ・こうした取組の効果などにより、平成24年の宿泊客数は、災害のあった平成23年に比較して、17%増加。さらに、平成25年は引き続き対前年を上回るペースで増加。



※H25年1月～6月は、速報値（対前年同月比107%）

○観光の復興への取組

- ・南部地域の基幹産業の一つである観光業の活性化により、紀伊半島大水害からの復興を進める
- ・南部地域での周遊観光を推進し、宿泊観光客の増加を図ることにより地域経済を活性化する
- ・地元での魅力の創出や情報発信、もてなしの向上等について検討を進める

(進捗状況)

**(1) 4月14日 南部地域の情報発信拠点としての「JAならけん まほろばキッチン」内、
観光案内所オープン**

- ・コンシェルジュ3名配置。電子機器を活用し、人対人の対応による旬の観光情報を提供
- ・市町村との連携イベント開催

7月27、28日 吉野町・川上村 10月6日 十津川村 **10月27日 桜井・宇陀広域連合**



「JAならけんまほろばキッチン」内観光案内所 市町村連携イベント “十津川村観光フェア”

(2) プレミアム宿泊旅行券の発行

25年度から市町村発行へ移行（市町村の実質負担分を県が支援）

発行予定 23,000枚（H24県発行枚数20,000枚）

五條市、吉野町、天川村、十津川村、下北山村、川上村

10月1日より、第3期分(6,085枚) 発売開始

(3) 南部地域での会議等開催支援

10月20日まで受付分 64件 宿泊予定人数 5,603人

(4) 観光プロモーション等

○京阪神エリア、中京圏において、南部地域の特性である「温泉」、「豊かな自然・歴史」をプレミアム宿泊旅行券・南部地域会議等開催支援事業とセットでPR

静岡県、食博覧会・大阪で実施。県外の商業施設等での実施について調整中

○各種媒体での特集ページの掲載

・旅行雑誌「じゃらん」関西版 11月発売号、12月発売号・関東版 1月発売号、3月発売号

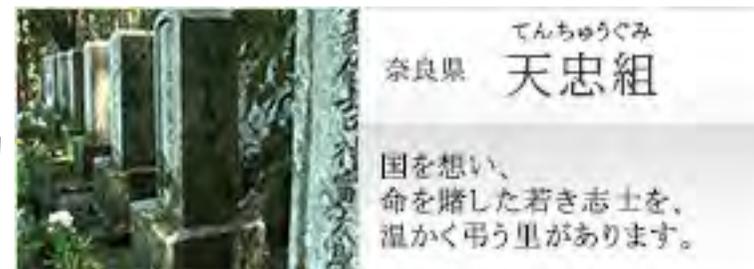
・宿泊予約サイト「じゃらんnet」「楽天トラベル」

・スマートフォン対応アプリ「週刊じゃらん」

○動画「美しき日本」制作・配信 約3分×3本 (H25制作分)

インターネット動画チャンネル「Nippon Archives」(月平均約12万件閲覧)での無料配信及び

各種イベント、行事等で放映し、南部東部地域の魅力発信テーマ等 天忠組(9/30～)他2本未配信地域で 選定中



(5) スポーツを核とした観光振興

○「小辺路トレイルジャーニー」の実施支援

・5月24日～26日 参加者 30人

・熊野古道小辺路(高野山金剛峯寺～野迫川村～十津川村～熊野本宮大社)

・主催 小辺路トレイルランニング実行委員会(事務局: 十津川村)



○南部地域におけるサイクルスポーツイベント開催支援

・9月7、8日 第12回ヒルクライム大台ヶ原 since2001 参加者 735人

・10月5、6日 第10回山岳グランfond in吉野 参加者 450人



○アウトドアスポーツ体験事業(カヌー体験教室) おおたき龍神湖(大滝ダム)

・9月7日 障害のある方対象 参加者 25人

・11月23、24日 参加者 179人



◆福祉の充実

- 山間地域における地域包括ケア(地域で暮らし続けるための仕組みづくり)の実現に向けた方策を検討
五條市大塔地区、十津川村においてモデル事業を実施し、地域の特性に応じた地域包括ケアシステムを奈良県モデルとして示し、地域包括ケアシステムの構築プロセスとその成果を県内の他地域に普及することを目指す

(進捗状況)

(1)五條市大塔地区

地域住民や関係団体、行政等による地域検討会「おとう元気会議」が立ち上がり、様々な取り組みが広がる

- 郵便局や消防分署が高齢者の見守りに参画、避難者の一時帰宅を学生ボランティアが支援
財団法人大塔ふる里センターによる配食サービス開始 大塔支所による買い物バスツアー実施 等
11月3日にシンポジウムを開催し、これまでの取り組みを紹介(参加者約120名)

(2)十津川村

復旧・復興のための庁内検討会議「活力と魅力あふれる村づくり推進委員会」設置(11月1日、10回目開催)

- 8月に実施した高齢者実態把握調査を通じて、引き続き高齢者向け施設の在り方を検討

(H25年度の取り組み)

- 高齢者が生きがいをもって住み慣れた地域で暮らし続けられる仕組みづくりを支援

【モデル事業(五條市大塔町、十津川村)】

- ・ 検討会等を開催し、高齢者が地域で暮らし続けるための取り組みを継続
- ・ 8月、十津川村で実態把握調査実施(高齢者のニーズ、地域課題等)
- ・ 11月3日、五條市大塔町においてシンポジウムを開催し、住民の不安の解消と参画気運を醸成。**2月以降、地区別懇談会を開催予定**

【他の地域への普及】

- モデル事業の取り組み内容を、南和地域及び東和地域の包括支援センターブロック会議等を通じて各町村への普及を図る
 - ・ 南和地域：7月19日及び9月11日
 - ・ 東和地域：11月26日開催
- 11月29日の市町村担当者連絡会議を通じて取組状況を紹介予定

11月3日開催のシンポジウムの様子



◆安全・安心への備え

○深層崩壊のメカニズム解明と対策研究

- 奈良県内で発生した54箇所の深層崩壊箇所を公表(平成24年9月10日)
- 「深層崩壊に関する溪流(小流域)レベルの調査」の調査結果を国土交通省が公表(平成24年9月10日)
- 「紀伊半島大水害 大規模土砂災害アーカイブ」のホームページを開設(平成24年10月5日)
- 大規模土砂災害監視・警戒・避難システム検討会(第7回)を開催(平成25年6月11日)
 - ・「深層崩壊のメカニズム解明に関する現状報告(平成25年6月版)」を公表
 - ※(平成25年2月版)を追加・更新
- 第2回 紀伊半島大水害復旧・復興シンポジウム(9月5日)にて、インタープリメント2014プレイベントを共催
 - ・特別報告:世界で発生している大規模土砂災害、奈良から世界へ情報発信
 - ・パネル展示
- 深層崩壊セミナーを11月22日(金)に開催



岡本環太平洋インタープリメント協議会会長からの特別報告
(紀伊半島大水害復旧・復興シンポジウム)



インタープリメント2014奈良大会の紹介(左)と奈良県の深層崩壊研究への取り組み(右)のパネル展示
(紀伊半島大水害復旧・復興シンポジウム)

○監視・警戒・避難のシステムづくり

- 大規模土砂災害監視・警戒・避難システム検討会(第6回)を開催(平成25年2月5日)
 - ・3つのモデル地区において、大規模土砂災害を想定した総合的な防災システムの検討に着手
- 大規模土砂災害監視・警戒・避難システム検討会(第7回)を開催(平成25年6月11日)(再掲)
 - ・「平成25年の出水期の取り組み」についてとりまとめを行い、県内市町村・関係機関等へ配布
- 「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」第7回知事会合において、奈良県知事より、防災・減災への新たな視点として、深層崩壊の調査・研究に関する情報共有などを提案(平成25年7月30日)
- モデル地区である天川村和田地区の自主防災組織の防災訓練(9月8日実施)を支援
- 深層崩壊セミナーを11月22日(金)に開催(再掲)

■天川村和田地区の自主防災組織の防災訓練の様子



自主防災リーダーとの事前の情報提供



非常持ち出し袋を手に避難行動中

紀伊半島大水害からの復旧・復興

深層崩壊セミナー

～紀伊半島から国内、世界へ情報発信～ インタープリバント2014奈良大会プレイベント

日時 平成25年**11月22日**(金) 14:00～16:40 <開場13:30>

会場 奈良県文化会館 小ホール (奈良市登大路町8-2 TEL. 0742-23-8921)

プログラム(予定)

開会挨拶

第1部 紀伊半島における深層崩壊の調査・研究について
 コーディネーター 藤田 正樹氏
(伊勢大学防災研究所 教授、奈良県林研(旧)長)

第2部 紀伊半島からの情報発信
 コーディネーター 松村 智樹氏
(京都府立大学大学院 教授)

**定員300名
入場無料**

◎主な出演者

石原 雄一郎氏 (伊勢大学防災研究所 教授)
 大田 孝治氏 (伊勢大学防災研究所 教授)
 中野 誠一氏 (伊勢大学防災研究所 教授)
 佐井 大輔氏 (伊勢大学防災研究所 教授)
 大田 孝治氏 (伊勢大学防災研究所 教授)
 佐井 大輔氏 (伊勢大学防災研究所 教授)

◎会場へのアクセス

会場へのアクセス

お問い合わせ電話番号 0742-27-8521
(奈良県 東上アライメント部 防災推進課)

○災害時のライフライン(電気・通信等)の強化

○災害後の強化状況

<市町村>	<県>	<事業者>
<ul style="list-style-type: none"> ・避難所等に非常用電源の整備 (75避難所で整備) ・衛星携帯電話の整備(73台増加) ・防災行政無線の強化(4市町村) ・衛星インターネットの整備(6市町) ・停電時に使用可能な電話機の設置(1村) ・特設公衆電話回線用電話機の設置(1市) 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所機能緊急強化補助金の創設 (平成24~26年度) ・衛星インターネットの整備 (南部農林(十津川)、吉野土木(上北山、天川)) (五條土木(十津川)) ・大和路情報ハイウェイの多重化 	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話基地局の停電対策の強化 ・複数の携帯電話基地局によるバックアップ体制の整備 ・ケーブルテレビの幹線二重化整備 等

○今後の対応

【非常用電源の確保等】

- ・避難所の非常用電源や衛星携帯電話等、最低限の電力や通信手段の確保を更に推進
- ・事業者は高圧発電機車、ポータブル衛星通信システム、移動基地局車等の代替手段を準備し、災害時に適切に配備

【施設・設備の強化】

- ・災害に強いライフラインを確保するため、通信線、送配電線の複数ルート化や設備の強化などを推進するとともに、衛星インターネットを適切に管理・運用
- ・災害時の備えとしてのエネルギー源について、再生可能エネルギーの活用も含め多様化を促進

(H25年度の主な取組)

- ・市町村が行う避難所の機能強化に補助
補助率 1/3(過疎地域は5.5/10)
限度額 5,000千円/市町村
補助金交付決定: 4村(10月31日現在)
避難所数: 22箇所
対象品目: 発電機、投光器 など
- ・中山間地域の大規模避難所である県立十津川高校にLPガス発電機をモデル的に導入
進捗状況: 業者選定を行い、10月契約
完成予定: 平成26年1月

◆記録の整備、次世代への継承

○紀伊半島大水害の記録編纂

・紀伊半島大水害の被害状況や復旧・復興への対応状況等について、記録の整備、次世代への継承を目的として「紀伊半島大水害の記録」、「パンフレット」を編纂し、防災啓発用や防災教育用の映像資料を作成するための「映像アーカイブ」を構築(平成25年3月)。



「紀伊半島大水害の記録」



「パンフレット」

紀伊半島大水害の記録
(224ページ、冒頭カラー)
発行部数 1,000部

パンフレット
(16ページ、全文カラー)
発行部数 2,000部

映像アーカイブ(データ)
写真 約4,200枚
動画 約66時間

○「(仮称)奈良県域等における過去の災害記録」作成

・過去の災害を教訓として伝承し、県民の防災意識の向上を図るために、紀伊半島大水害をはじめ過去の奈良県域等の災害を振り返り、また同時に防災・減災に資する言い伝え等を整理することで、将来にわたって防災対策に有効活用できる啓発冊子の編纂を、平成25年度に行う。

(主な災害例)

- ・伊賀上野地震(1854年)
- ・十津川大水害(1889年)
- ・伊勢湾台風(1959年)
- ・大和川大水害(1982年)
- ・紀伊半島大水害(2011年)

・伊賀上野地震(1854年)以降を主に、宝永地震(1707年)等も含め、特筆すべき災害について掲載予定。

・現在、過去の災害(伊勢湾台風、大和川大水害等)の経験者へのインタビューを実施中。

また、有識者の協力を得て、過去の災害資料を調査中。

◆地域産業復興プロジェクトチームの取組状況

- ・「地域産業復興プロジェクトチーム」を設置(地域振興部、観光局、産業・雇用振興部、農林部の19関係課(室)で構成)
- ・市町村の意向を踏まえ、今後重点的に検討・推進する事業テーマを設定
- ・個別チームにより市町村と連携して具体的事業への取組

事業テーマ・個別チーム	取組の概要	主な取組の進捗状況
<p>1 農産品等による6次産業化の推進</p>	<p>農産品等の生産と加工・販売にも総合的に取り組むことにより、地域資源を活用した新たな産業の創出の促進</p>  <p>下北春まな生産</p>	<p>【春まなの生産・加工の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス栽培の導入(11月末予定)による生産量増加方策の実証実施 ・村民を対象とした有機農業勉強会の開催 ・味噌等加工品の開発 (下北山村で実施) <p>【なんゆう祭(南部地域産業復興推進大会)の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年11月23日(土)、24日(日) 川上村大滝ダムサイト、やまぶきホール周辺で開催(詳細は42ページ)
<p>2 有害鳥獣の駆除及び活用</p>	<p>捕獲した野性獣(ニホンジカ、イノシシ)の利活用(食肉利用等)の確立</p>  <p>箱わなに入ったイノシシ</p>	<p>【野生獣の利活用システムの導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有害鳥獣処理加工施設の整備(11月上旬完成) ・村内関係者による人材育成、料理メニューの開発 等 (上北山村で実施)

事業テーマ・個別チーム	取組の概要	主な取組の進捗状況
3 エネルギーの地産地消	<p>①小水力発電 市町村等による可能性調査や事業化への支援を実施。成果を市町村でも活用し、小水力発電の普及</p> <p>②木質系バイオマス 「原料木材の安定供給」、「エネルギーの有効利用」、「採算性の確保」を踏まえた木質バイオマス利活用の拡大</p>	<p>【地域振興に役立つ小水力発電の導入に対する支援】 ・小水力発電の導入可能性調査に対する支援(川上村を含め6団体で実施中)</p> <p>【再生可能エネルギーとしての木質バイオマスの利用推進】 ・原料木材搬出の低コスト化及びチップ・ペレットの効率的な製造工程の検証のための実証実験を御杖村で実施 年間生産予定20トン 10月末現在生産量18トン</p>
4 コミュニティビジネス	<p>村民参加型コミュニティビジネスの創設</p>  <p>コミュニティビジネス(草刈り応援隊)</p>	<p>【地域の課題解決のためのコミュニティビジネスの導入】 ○ふるさと協力隊員(県)、地域おこし協力隊員(村)の協力による生活支援事業の試験的实施 ・草刈り応援隊の結成及び活動 ・蜂の巣除去活動の実施 ・土曜朝市の実施 (下北山村で実施)</p>
5 企業誘致	<p>県、市町村と連携した誘致活動展開</p>	<p>【インターハイ開催を契機としたスポーツによる南部・東部地域の振興検討】 ・平成27年度近畿ブロックで開催されるインターハイの南部・東部地域での開催の推進及びスポーツ振興を核とした地域おこしに関する調査・検討(県で実施)</p> <p>【南部・東部地域に立地する企業に対して被災地域復興推進補助金を加算】 ・南部・東部地域の企業活動を推進し雇用の確保を進めるため、一定規模以上の企業立地に補助金を加算 ・五條市での立地企業1社に適用予定</p>



ペレット製造



コミュニティビジネス(草刈り応援隊)

【なんゆう祭(南部地域産業復興推進大会)】

- 平成25年11月23日(土)、24日(日)に、川上村大滝ダムサイト及びやまぶきホールで開催 (来場者数:全会場延べ4,950人)

実施内容

- 南部地域市町村物産展(23日・24日)
 - ・吉野郡、五條市12市町村のうまいものや特産品などを販売
 - ・木工などの体験コーナーもあります
- 村弁王(村おこし弁当)決定戦(23日)
 - ・南部地域の食品関係者や加工組合、素人さんたちがつくる「村おこし弁当」の決定戦
- そまびと選手権大会(24日)
 - ・丸太早切りや立木切倒しなど、チーム対抗で林業の技を競います
 - ・丸太1kg引きなど一般参加コーナーもあります
- 大滝ダムの見学会やカヌー体験教室などのイベントも開催

※第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～1年前プレイベント
やまと海づくりフェスタin川上と共催



※第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～

ゆたかなる 森がはぐくむ 川と海

○大会の概要

- 主 催 豊かな海づくり大会推進委員会
第34回全国豊かな海づくり大会
奈良県実行委員会
- 後 援 農林水産省(予定)、環境省(予定)
- 開催時期 平成26年秋
- 開催場所 吉野郡大淀町 川上村
- 行事内容 式典行事(大淀町内)
放流・歓迎行事(川上村内)
関連行事(企画展示、ステージイベント等)

平成25年度の取り組み

- 大会基本計画、大会実施計画等の策定
- 1年前プレイベントの開催
 - ・ やまと海づくりフェスタin五條(10月12日)
 - ・ やまと海づくりフェスタinまほろばキッチン(11月9、10日)
 - ・ やまと海づくりフェスタin川上(11月23、24日)
- リレー放流の実施
- 大会弁当コンテストの実施
- 啓発ポスター、のぼり、PRグッズの作成
- 県や市町村等が実施するイベント等におけるPR
- ホームページ、広報誌等における情報発信 等



式典行事(第33回熊本大会リハーサルの様子)



やまと海づくりフェスタin五條

◆ふるさと復興協力隊

- 紀伊半島大水害による被害が過疎化に拍車をかけることのないよう、復興活動、地域協力活動、地域おこし活動などに従事する人材を県が直接採用し、市町村に配置

※平成25年11月1日現在で、**17名を配置**（平成25年度配置予定 25名）

配置済の隊員の主な業務

五條市	3名	仮設住宅入居者などの生活支援等
十津川村	1名	木彫り・木工指導等
野迫川村	1名	高野槇を使った産業振興支援等
天川村	2名	特産品の商品化・発掘販売促進支援等
川上村	1名	ツアーメニュー造成、紀伊半島大水害復興大会支援等
上北山村	3名	村おこしメニュー造成、村情報の発信、 鳥獣害対策・獣肉加工支援等
下北山村	2名	地域特産物の生産販売支援等
宇陀市	2名	観光振興支援、鳥獣害対策等
高取町	1名	イベント企画運営等
黒滝村	1名	農産物の生産・加工支援等

隊員の研修会

（平成24年度）

10月18～19日 天川村で実施（13名が参加）

12月25～26日 下北山村で実施（14名が参加）

（平成25年度）

5月7～8日 十津川村で実施（14名が参加）

10月24～25日 川上村で実施（12名が参加）



野迫川村の協力隊の活動(高野槇販売等)の様子